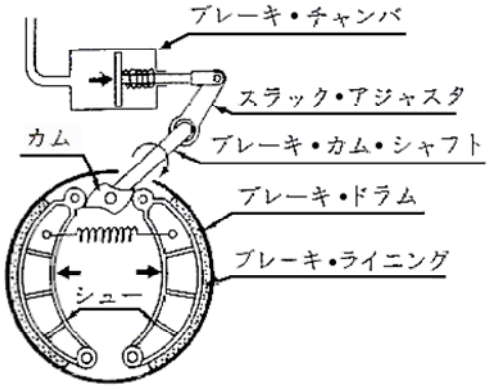
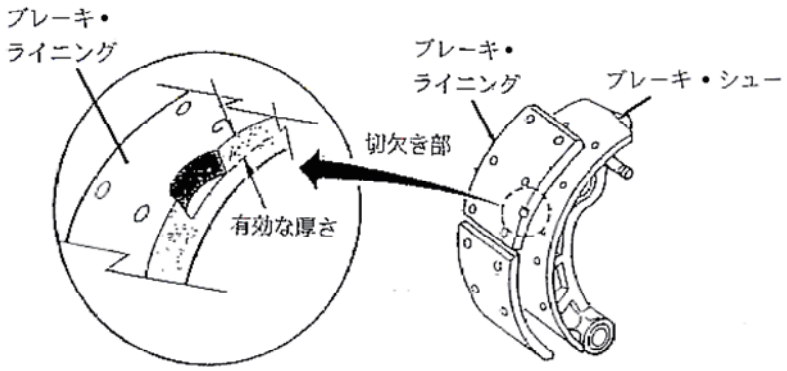
トレーラサービスニュース

NO. 16	発行日 2002年4月	改定日 2010年3月

ブレーキ・ライニングの取扱注意事項

1. 構造





2. ブレーキ・ライニングの異常による現象

ブレーキ・ライニングに異常があると、次のような現象があります。

現　　象	現　象　の　要　因
ブレーキの片効き 制動力不足	① ブレーキ・ライニングまたはブレーキ・ドラムにオイルや水が付着している。 ② ブレーキ・シューのクリアランスの調整が悪い。 ③ ブレーキ・ライニングとブレーキ・ドラムとの当りが悪い。 ④ ブレーキの使い過ぎによるフェード現象。
制動時に騒音が出る	① ブレーキ・ライニングが使用限度以上に磨耗して、リベットが露出している。 ② ブレーキ・ライニングの表面が硬化してツルツルになっている。(過積載、下り坂のブレーキ多用など) ③ ブレーキ・シューアンカピンが磨耗または、ブッシングが磨耗している。

(社) 日本自動車車体工業会　　トレーラ部会　　サービス委員会

NO. 16	発行日 2002年4月	改定日 2010年3月

ブレーキ･ライニングの取扱注意事項

3. 点検･保守

1）ブレーキ・ライニングの有効厚さの点検
ブレーキ・ライニングには、有効な厚さがあり、使用限度が規定されています。
ブレーキ・ライニングの使用限度表示(インジケータ)、またはメーカー指定のブレーキ・ライニング残厚を確認し、使用限度に近づいたら早めに交換してください。
ブレーキ・ライニングは、必ず純正品を使用してください。ブレーキ・ライニングは、ブレーキ・ドラムとの相対的バランスを考慮して設定してありますので、純正品以外の部品を使用すると異常発熱等によりブレーキ・ドラムのヒートクラックの原因となります。

ヒートクラックについては、トレーラサービスニュースの No. 4「ブレーキ・ドラム摩耗及び損傷の点検整備について」を参照下さい。

2）ブレーキ調整、ブレーキ・シューアンカピン等の点検
各メーカーの取扱説明書等の整備基準、整備期間を確認し、次の保守・点検を行って下さい。
① ブレーキ・チャンバプッシュロッドストローク調整
（オートマチック・スラック・アジャスタ装着車は、取扱説明書等を確認して下さい。）
② ブレーキ・シューアンカピン、ブッシングの磨耗
③ リターンスプリング張力、自由長の点検
④ ローラとローラピンの点検
⑤ ブレーキ・シューの外観

⚠注 意

ブレーキ・ドラムとブレーキ・ライニングの固着
ブレーキ・ドラム内に進入した水分による錆付きや、冬季には凍結等の現象が発生し、ブレーキが解除できない不具合が発生することがあります。
走行前に必ずブレーキが解除するかを確認して下さい。

4. 注意事項

フート・ブレーキ、トレーラ・ブレーキを使い過ぎるとブレーキ・ライニング、ブレーキ・ドラムの早期磨耗やブレーキ・ドラム、ライニング等が過熱し、ブレーキの効きが大幅に低下するフェード現象が発生しますので注意して下さい。

1）車間距離の確保
十分な車間距離を確保し、ブレーキの多用は避けて下さい。
2）トレーラ・ブレーキの多用禁止
トレーラ・ブレーキのみの多用は、ブレーキ・ライニング、ブレーキ・ドラムの早期磨耗の原因となりますので避けて下さい。
3）規定内積載での運行
最大積載量以内で運行し、過積載での使用は行わないで下さい。また、積み方についても第5輪と後軸にバランス良く積載して下さい。
4）補助ブレーキの使用
長い坂道を下るときは、フート・ブレーキの使用を最小限とし、エンジン・ブレーキ、エキゾースト・ブレーキあるいはリターダ・ブレーキの補助ブレーキを使用して下さい。

（社）日本自動車車体工業会　　トレーラ部会　　サービス委員会